



運輸安全マネジメント 安全対策会議録



実施日 令和8年 1月 15日 (別紙3)

実施時間 18:00 ~ 19:30 実施場所 会議室


- 内部監査結果のポイントと改善策の報告及び社長指示 どちらかをする
 改善事項の討議と報告及び社長指示

出席者 (安全対策会議メンバー)

桑原勇太(代表取締役社長)  桑原秀治(代表取締役会長・安全統括管理者) 

菅野弘二(執行役員 乗務員教育・車両管理部長)  戸島正晃(監査部部長) 


川名 盛貴(車両管理運行課長代理)  星 純治(車両管理運行課長代理) 

成田 大地(内部監査員) 

討
議
事
項

第2回、安全マネジメント内部監査実施報告

1. 白手指差呼称による安全確認の徹底及び2秒ルールの徹底については概ね良好。重大事故なし。無傷記録に関しては目標6件以内に対して17件で未達成。昨年度の件数から検討すれば6件が少し無理な目標ではないかと指摘。安全統括管理者からは、過去の傾向から、過度な目標を立てた年度は目標達成出来ない場合がほとんどであるという意見があり、来年度の目標は年内事故12件とした。無事故記録については、引き続き6カ月連続は今年の傾向から現実的ではないということで、150日以上とした。
2. 日常点検の徹底と3ヶ月点検については、12月時点で全て実行されている。現状、業務部と監査部による2重チェック体制が確立されており、抜け漏れがないよう相互監視体制が整っているため、抜けはない。故障については、国土交通省からも故障起因事故を防止するよう通達があり、引き続き対応強化していく。
3. ヒヤリハット情報収集について6月末時点で目標はすでに達成し更に収集できた。引き続き集計を継続していく。
4. 健康管理体制の構築について、定期健康診断に対するフォローアップ体制はまだ十分とは言えない。産業医が交代し安全衛生管理会議の体制を変更し、定期健康診断のフォローアップに限らず、年間を通して様々な健康管理の課題を科していくこととした。
5. 日々の4点書類チェックについて、内部監査員より、法令違反の運行はなかった旨の報告あり。
6. 遠隔点呼については、機器の不調があったケース以外問題なし。
7. 事故防止想定訓練時の実技訓練を通じて、乗務員の技量向上を図ることが出来た。優良事例

<p style="writing-mode: vertical-rl;">改善及び是正措置</p>	<p>1. 今年度目標未達成、来年度は年間 12 件未満を達成し、重大事故が発生しないよう細心の注意を払って対応していく。</p> <p>4. 健康診断結果の対応如何で、行政処分が課される可能性が出てきたことから、早急に業務部と監査部が協議し、健康診断後のフォローアップ体制を完全に組み上げるよう業務部が対応中 安全衛生管理会議の体制の刷新準備中</p> <p>3. ヒヤリハット報告について、引き続き乗務員への広報を行う。ドライブレコーダーでの検証動画に使われるのが心理的抵抗になっているという報告も上がっているので、取扱注意で収集すること（前回の判断維持）</p> <p>6. 点呼実施について、1 件もミスのないよう厳正に行っていく。</p> <p>来年度から、A を達成し続けている目標については、より基準を厳格にするか、別の目標を設定することとなった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">統括安全管理者の指示</p>	<p>1. 軽微な接触事故を防止し発生を抑制するために重要と共有し、危険から離れる意識を常に習慣化させる指導と個別効果や運転操作に生かすか? いるか、検証対象指導</p> <p>2. 安心運転は、ス4-ス7の走行及び危険地帯での安全確認と安全速度、一時停車の判断力を磨かせる。</p> <p style="text-align: right;">桑原秀治 社長権限 </p>

次回の運輸安全マネジメント 内部監査予定は 令和 8 年 6 月